

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075400376		
法人名	有限会社ハートケアなごみ		
事業所名	グループホーム なごみ		
所在地	〒807-1311 福岡県鞍手郡鞍手町大字小牧字西牟田1969番地 0949-43-1753		
自己評価作成日	平成24年1月9日	評価結果確定日	平成24年03月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のどかな環境にある地域の利点を生かし、町内での行事に参加したり盆踊りではホームの駐車場を開放するなど地域交流に力を入れている。また近隣住民からは季節の野菜や果物の差し入れをいただくなど、気軽に足を運べる環境になっている。家族との交流では面会のほか以前から取り入れていた食事バイキングを継続しており好評を得ている。
これからも私たち職員は運営理念にある「入居者様が自分らしく生き生きと尊厳のある生活」が送れるよう支援していく所存である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「なごみ」は、長閑な田園地帯の中にあり、横を流れる小川にはメダカが自生し、自然環境に恵まれた家庭的なグループホームである。「利用者が自分らしく、生き生きと、尊厳のある生活が送れるように支援していく」という理念を、職員が理解し、共有して、実践に向けた取り組みは、利用者や家族に、安心と、信頼を結び付けている。地域の夏祭りに、駐車場を盆踊り会場として提供したり、年2回の昼食バイキングには、家族や地域の方の参加で賑わい、交流の輪が広がっている。24時間の協力医による医療連携は、訪問看護や歯科医等と協力し、充実した体制が整っている。また、利用者の心身機能維持向上を目指し、利用者一人ひとりに合わせ、自立支援に向けた取り組みは、利用者のやる気と、職員のサポートで、介護度の改善が見られ家族の喜びは大きなものがある。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 093-582-0294		
訪問調査日	平成 24年02月20日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	以前は誰のための理念が明確ではなかった点を改善し、新たに「入居者様と私たちは」という文言を加え、引き続き地域の一員として自分らしい尊厳のある生活を支援している。	「利用者と職員が、地域の中で、信頼関係を築きながら、自分らしく、尊厳のある生活を支援していく」という、理念を職員全員が共有し、介護サービスを実践している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム周辺のスーパーへの買い物や散歩などで近隣の住民と挨拶を交わしたり、地域の方から野菜や果物を差し入れて下さるなど交流が盛んに行われている。また年2回の昼食バイキングを開催し、利用者家族や地域住民を招待し好評を得ている。	利用者と職員は地域の行事や、盆踊りに参加し、ホームのバイキングやそうめん流しに地域の方や、家族が参加等で、親しくなった住民から、野菜や果物の差し入れ等、活発な交流が始まっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域老人会特別会員として地域の夏祭りへの参加や盆踊りでホームの駐車場を開放している。また町内主催のお茶会などに参加し、地域の一員として交流を図っている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回定期的に開催している。議題は行事報告、事故報告などのほか、ホームで取り組んでいる事柄を報告している。その一方で参加者からの意見や情報を受け、サービスの質の改善に向けた取り組みを行っている。	2カ月毎に開催している会議では、各委員から情報、質問、アドバイス等が出され、ホームから、現状と問題点等報告し、出された内容が、ホーム運営に反映されることもあり、充実した会議になっている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議開催のほか、町主催のふれあいフェスタに参加し、他事業所職員との連携に努めている。また鞍手町役場や広域連合鞍手支部に足を運び、気軽に相談できる関係を構築している。	行政担当窓口にて、報告や相談に定期的に訪問し、触れ合いフェスタに利用者と職員が参加したり、運営推進会議に行政職員が出席し、ホームの現状を把握してもらい、行政との連携に努めている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業者外研修後に職員研修を実施し、身体拘束未実施に取り組んでいる。日常生活では夜間を除き原則玄関の施錠は禁止している。	身体拘束廃止マニュアルを整備し、拘束が利用者にもたらす弊害を、研修会で職員に理解してもらい、身体拘束廃止のための、介護サービスを実践している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修やスタッフミーティングで取り上げ、運営理念に掲げてある「自分らしい尊厳のある生活を支援していく」を再確認しながら業務を遂行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	開設後権利擁護制度の利用実績はないが、所長は地域内外の研修に参加し理解を深めている。その研修を事業所内研修で職員に報告し、職員の理解を深めるよう取り組んでいる。	現在、利用者はいないが、制度の資料を揃え、職員間で研修し、理解して、利用者や家族が必要な時に、活用するための説明や、橋渡しの用意が整っている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に入居者家族の不安や疑問がなくなるまで十分な説明を行い、理解・納得されてから利用契約書・重要事項説明書に署名・捺印をいただいている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関前に意見箱を設置している。また面会時や家族会などにおいても職員と話しやすい環境を整えている。	玄関に苦情受付窓口を掲示し、意見箱を置いているが、家族の要望は、面会時や、電話等で聞き取り、出された意見や要望は、検討し、出来るだけ家族の希望に副える支援をしている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼やミーティングに限らず、職員が意見を言いやすい雰囲気作りを努めている。その意見を確認した上で業務に反映させている。	職員会議は毎月、勤務時間内に当日出勤の小人数の職員で開催し、全体会議は実施していない。出された意見は、出来るだけ反映させる努力をしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の意見に耳を傾け、職員が働きやすい環境で業務が遂行できるように努めている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に関しては性別・年齢制限は行っていない。既存職員に関しては気分のリフレッシュが図れるよう、定期的に休み時間を取り入れている。	職員採用条件は、年齢、性別、経験の制限はなく、その人のやる気や、人間性を重視している。職員ロッカーを整備し、休憩時間を交代で取る等、職員の気分転換を図る取組がある。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	事業所外研修に参加し、その内容を職員に事業所内研修として伝達し理解を深めている。	外部研修を受けたホーム長が、講師として、利用者の人権について話し、利用者の人権を尊重する取り組みがある。また、職員が、理念を唱和して、理念の内容を理解し、実践に向けて努力している。	
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	所長が主に事業所外研修に参加し事業所内研修を実施しているが、職員が事業所外研修に参加する機会が少ない。今後職員のスキルアップの為、拳周到に参加する機会を設定する必要がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム連絡協議会に加入し、研修等で交流の機会を図っている。また徘徊ネットワークにも加入しており、地域の事業所との交流にも取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者やその家族に見学に来られた際にホームや職員の雰囲気を感じていただき、安心した環境で本人の不安や要望等を聞き取るように努力している。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が抱えている不安や要望は納得されるまでゆっくりと時間をかけて傾聴し、それらの思いを受け止めるよう努力している。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者が「自分らしく尊厳のある生活」が出来るよう、今必要としている支援を見極め自立に向けた支援を行っている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行事参加の声掛けにとどまらず、入居者の自立支援の為に過度な支援を避け、掃除や洗濯物たたみといった家事手伝いなど、出来ることを職員と一緒にやっている。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族がいつでも来訪できる環境整備に努め、来訪された家族に職員が入居者の状況を随時報告しながら、一緒に入居者を支援する関係を構築している。		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで培われた入居者の生活習慣に留意した支援を行っている。また来訪された家族や知人に状況を報告し、依頼があれば外出の機会を設ける等の対応を心掛け、入居者にとって馴染みのある場所や人との関係が継続できるよう対応している。	職員は、利用者の行きたいところ、会いたい人等を聴きだし、家族と相談しながら、支援をしている。また、ホームに、利用者の友人、知人、遠方の親せきが来訪し、楽しいひと時を過ごしてもらうこともある。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ラジオ体操や掃除、レクリエーションを通して入居者同士が会話しやすい環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者の契約終了、新規申し込みに関わらず家族からの相談には常に応じ、ホームで出来る対応や支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の生活の中から希望や要望を聞き取り、会話の困難な入居者は家族から希望を伺うようにしている。その希望等はミーティング等で検討し、把握に努めている。	利用者と職員は、寄り添いながら楽しい会話が弾んでいる。その中から利用者の思いや、悩み等聴きだし、内容によっては、家族に相談し、協力をお願いしながら、利用者の希望することが、支援できるように努力している。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの面談で収集した情報だけでなく、入居してから本人の生活を職員から情報を収集しながら把握に努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人ケア記録や日々の健康チェックにおいて、入居者の心身状態等の把握に努めている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは毎月行っている。家族の都合により担当者会議への出席はほとんどないが、面会時に家族から希望や意向を聞き、それをもとに担当者会議で介護計画書を作成している。	利用者や家族の希望を聴き取り、毎月のモニタリングで、関係者が検討し、利用者本位の介護計画を3カ月毎に作成し、家族の了承を得て、実施している。また、日頃から家族と、密に連絡を取りながら、利用者の状態変化に、即応できる工夫を重ねている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケア記録や介護計画記録書に日々の様子を記録し、サービスの実践や介護計画書の見直しに活かしている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状況や家族の状況に対し、通院介助や外出など柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの来訪や訪問理美容、近隣住民との交流を通じ、入居者が安心して自分らしい生活が送れるように支援している。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関に2週に1回の往診のほか、毎週訪問看護師による健康チェックが受けられるよう支援している。また急変時には24時間連携体制を取り、いつでも対応できるように支援している。	利用者や家族の希望を優先し、かかりつけ医の受診支援をしている。また、協力医療機関による、2週間毎の往診や、毎週火曜日の訪問看護と、職員との連携で、安心して任せられる医療体制が確立されている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に訪問看護師による健康チェックを受けている。その上で介護職・看護師で情報を共有し、入居者に適切な支援が行えるよう努めている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的に面会し、入居者の状況を担当医や看護師に経過を伺いながら、退院後の支援方法などのアドバイスを受けている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	開設以来、ターミナルケアの実績はない。家族には契約時に「重度化の対応に関する指針」の説明を行い、署名・捺印をいただいている。現在ターミナルケアのマニュアルを作成中である。	重度化に向けた指針を作成し、利用者や家族に、契約時に説明し、承認を得ている。また、ホームで出来ることを、マニュアル化し、利用者が重度化に向けた体制の確立を目指している。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の消防訓練や事業所内研修において応急処置等の知識や技術を習得している。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練で職員は避難経路を把握している。また地区区長や民生委員にも協力をお願いし、地域住民との連携も取れつつある。	周りに人家が少なく、非常災害時には、近隣住民の協力体制が必要なので、地区区長や民生委員に、運営推進会議時に協力要請をしている。また、年2回、防災訓練を実施し、非常口、避難経路、避難場所を確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの尊厳を尊重し、プライバシーを配慮した対応を心掛けている。職員はプライバシーの保護や個人情報に関する研修を定期的に行っている。	職員は、優しい思いやりのある介護を提供するための、接遇の勉強会で理解したうえで、利用者を人生の先輩として尊敬し、対応をしている。また、個人記録等は人目に触れない場所で、保管されている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の表情や行動から職員はその人の希望や思いを汲み取り、自己決定ができるように支援している。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なスケジュールはあるが、それに捉われず一人ひとりの生活リズムやその日の状況に応じた柔軟な対応を心掛けている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常生活だけでなく、外出の際も本人らしい身だしなみを意識した支援を行っている。また衣服が足りない時は家族に連絡し、補充していただくよう協力を依頼している。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者と同じテーブルと一緒に食事をしながら楽しい時間が共有できている。また入居者の状態を把握しながら、職員と一緒に食事の準備や下膳をしている。	食事は、利用者の楽しみの一つであり、調理自慢の男性職員が作る美味しい料理を、利用者は利用者同士、職員は職員だけで、テーブルを囲み、同じ時間帯に食事をしている。	職員が利用者の中に入り、楽しい会話の中で食事を取れる体制を、期待したい。
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日入居者の食事・水分摂取量を記録し、日々の状態が把握できるようにしている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者に口腔ケアの声掛けや介助を行いながら、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄は随時排泄チェック表に記録している。チェック表で入居者の排泄間隔を把握しながら排泄備品の消耗や失敗を減らし、自立に向けた支援を行っている。	職員は、利用者の排泄パターンを把握し、優しい声かけや、さりげない誘導で、トイレでの排泄の支援をしている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の食材を出来るだけメニューに取り入れた工夫をしている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は2日に1回を基本としているが、入居者の要望に合わせて対応している。時間も入居者の心身の状態を考慮したり希望に合わせて対応を行っている。	利用者の入浴は、一日おきに行われ、利用者の健康状態や、その日の気分に合わせて、曜日を変更したり、時間をずらす等、利用者一人ひとりに合わせた、入浴の支援をしている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活ペースを大切に、自室やリビングでくつろげる空間を整備している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時に主治医に入居者の状況を報告し、一人ひとりの服薬の目的について把握するよう努めている。分からない薬等については主治医や薬剤師に連絡し、他の薬との併用や副作用について相談している。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の残存能力を活かした家事の手伝いやカレンダー書き、レクリエーション等の声掛け支援を行っている。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の要望や状態に合わせて外出したり、地域から行事の連絡をいただき外出に繋げている。また家族にも協力を依頼し、外出や外泊の支援も行っている。	外食、散歩、買い物、花見、公園の鯉見物等、利用者の希望を優先し、家族とも相談しながら協力を依頼し、楽しい外出の支援ができるよう努力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理は事業所で行っているが、買い物介助で支払いの出来る入居者については職員見守りの中で支援している。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>入居者からの希望に応じて家族へ電話をかける支援を行っている。</p>		
54	2 2	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関を入ると広いリビングがあり、大きな窓から広大な田園や山を見渡すことができる。またリビングには天窓があり、自然光が差し込み暖かな雰囲気です居心地の良い共用空間となっている。</p>	<p>自然環境に恵まれた小川や、田園地帯が広がる周りの景色に、溶け込むように、家庭的な環境のグループホームである。天窓や窓から射し込む日差しは、柔らかく利用者の気持ちを和ませ、一日の大半を過ごすリビングは、居心地の良い共用空間になっている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下や玄関前、リビングにソファを設置し、馴染みの入居者と会話をしたりゆっくりと過ごせる環境を整備している。</p>		
56	2 3	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には出来るだけ使い慣れた調度品を持参していただき、本人が安心して居心地よく過ごしていただけるように配慮している。</p>	<p>入居前に、利用者や家族と、持ち込みの荷物について、話し合い、利用者の使い慣れた物や、家具等居心地良く暮らせるために、配慮し、利用者が安心して、暮らし続けるように協力関係ができています。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各居室に表札をつけたり、トイレなどの共同スペースには大きな文字で標識を貼るなどして、入居者が安全で自立に向けた生活が送れるように支援している。</p>		